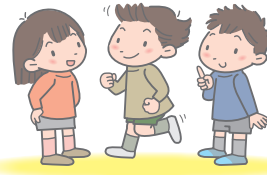




子ども健康教室

12月7日土曜日 イオンモール鈴鹿で「出張！三重病院～こども健康教室2024～」を開催しました。当日は約400名の大勢の方々に来場頂きました。

子供たちが体験できる「お菓子の金平糖やラムネを使っての調剤体験」「みえツウちゃんのクリスマスリース作り」「野菜スタンプでクリスマスツリーを飾ろう」「記憶力・柔軟性チャレンジ」「もこもこ泡を作ってみよう」「白衣を着用して記念写真」「エビペン体験」などを企画しました。どのおこさんも楽しそうに参加してくれて、あちこちで笑顔が見られました。



来場者からは、「去年も楽しかったので、今年も来ました。」と嬉しいお言葉を頂きました。

付き添いのお父様より「子供のころ、三重病院に通院していました。」と教えていただきました。慌ただしい師走の1日でしたが、参加したスタッフからも「疲れたけど、楽しかった。子供たちが、かわいい。また、次回も参加したい」と好評でした。

来年度もまた三重病院の魅力伝える参加して楽しいイベントを開催しますので、楽しみにお待ちください。

(地域医療連携係長 岡 道代)

糖尿病ワンポイントアドバイス No.7

～「シックデイルール」という言葉を聞いたことがありますか？～

糖尿病患者さんが治療中に、発熱、下痢、嘔吐や、食欲不振のため食事ができないことを、シックデイ(Sick day:体調の悪い日)と呼びます。そして、シックデイになった時の家庭での対応方法を、シックデイルールといいます。シックデイでは、いつもは血糖コントロールの良い患者さんでも著しい高血糖になったり、食事ができずに低血糖になったりする可能性があります。これを回避するため、患者さんはシックデイルールをしっかり理解しておく必要があります。シックデイという言葉を知っていても、シックデイルールを知らない患者さんは意外と多いように感じますので、今回はお菓子のシックデイルールについて少し紹介させていただきます。

まずはインスリンを使用している患者さんですが、食事が取れなくても自己判断で注射を中

断してはいけません。基本的な対応として、持効型インスリンはそのままの量で継続し、(超)速効型インスリンは食事量や血糖値に応じて増減してください。また、インスリン以外の多くの糖尿病治療薬は中止する必要がありますが、一部の薬剤は食事量によって調節することもあります。ご自身のお菓子のシックデイルールについて、今一度、主治医に確認し、安心して治療を継続できるようにしましょう。

最後になりますが、日本くすりと糖尿病学会よりシックデイ時の患者さんと主治医の連携ツールとして「シックデイカード」が作成・公開されていますので、興味のある方はかかりつけの調剤薬局で問い合わせてみると良いと思います。

(薬剤科 山本 高範)



外来からのお知らせ 休診 [眼科] 3/19(水)・21(金)・・・樋口(代診なし)

当院の都合で急遽休診が出ることがあります。気になるようでしたら、受診当日、当院までお問い合わせください。